

熊本県で開発した新技術

熊本県農業研究センター

2025

高設栽培におけるイチゴ「ゆうべに」の 頂花房の最適な着果数

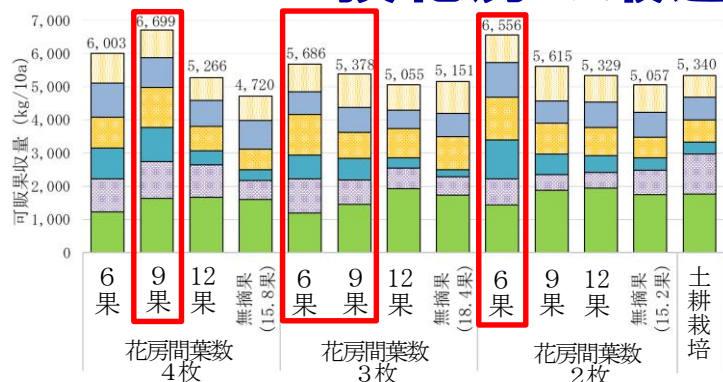


図1 花房間葉数と着果数の違いによる可販果収量

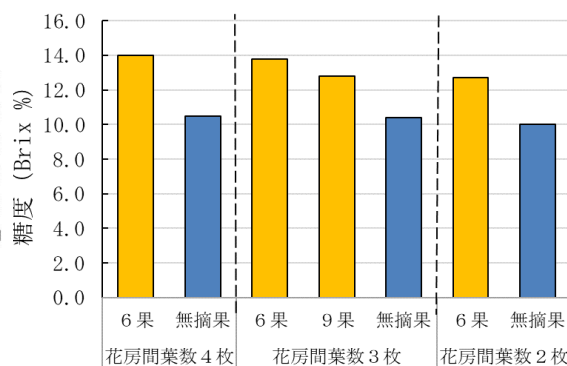
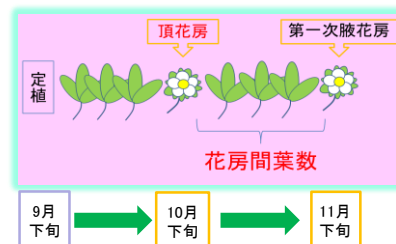


図2 花房間葉数と着果数の違いによる糖度
※12月下旬調査

問 研究のねらいは？

答 イチゴ「ゆうべに」の土耕栽培では頂花房の最適な着果数(草勢に合わせて約12果程度)を明らかにしていますが、高設栽培では不明でした。そこで、高設栽培における頂花房と第1次腋花房の花房間葉数とそれに応じた最適な頂花房の着果数を明らかにしました。



問 優れている点は？

答 イチゴ「ゆうべに」の高設栽培における最適な着果数については以下のとおりです。

- 1 頂花房と第1次腋花房の花房間葉数が4枚の時は着果数を9果、3枚の時は6果および9果、2枚の時は6果に着果数を制限することで可販果一果重が確保され、可販果収量が多くなります(図1)。
- 2 花房間葉数毎に最適な着果数に制限することで、糖度が高く維持され(図2)、ガク枯れ果の発生も低減します。

問 栽培または普及するうえで注意する点は？

- 答
- 1 今回の栽植様式は、(株)アグリス社製で平型2条タイプ(培土1年目)、ベッド幅130cm、株間25cm、2条千鳥植えとしています。
 - 2 頂花房と第1次腋花房の花房間葉数が1枚以内(1.5番果を含む)の第1次腋花房は全て除去してください。